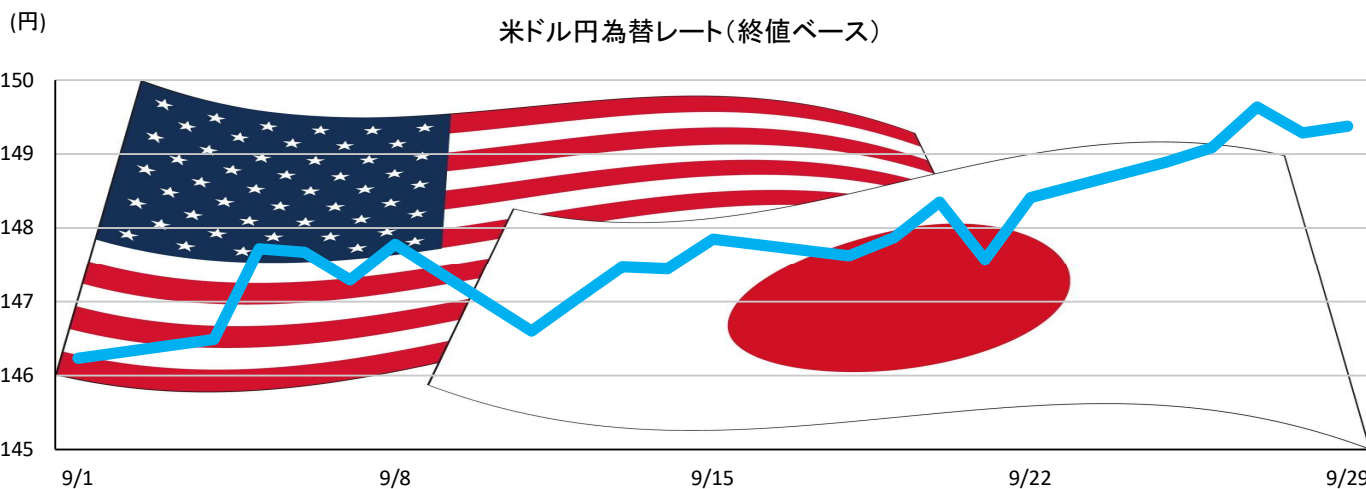


MARKET REVIEW

先月の振り返り: 9月のドル円相場は144円半ば～149円後半で推移。月初の米雇用統計発表後にはドル売りで反応したものの、ISM製造業景況指数の上振れでドルは買い戻された。さらに植田総裁の発言を金融緩和修正思惑と受け止められ円高に振れたが、予想より強い米CPI発表で再びドル買いとなるなど、ドル高基調は続いた。月中にかけては主要国の金融イベントを控えて小動きとなったが、米FOMCでは年内にあと1回利上げ見通しとなり、利上げ状態の長期化が見込まれることからドル全面高となり、その後の日銀金融政策も据え置きとなったことも円安ドル高を後押しした。月末にかけて政府・日銀の円安けん制発言もあったが、日米金利差を意識した円売りドル買いが続き、約1年ぶりの150円が目前となった。



EXTRA VISION

今後の展開: 10月に入りドル円は心理的節目の150円を突破した。ただ、わずか数分で3円近く円高に振れる荒い動きを見ると為替介入が行われた可能性が高い。仮にドル円が再び150円を突破しても昨年の円安水準である151円95銭が意識されている事を踏まえると、再度為替介入が実施される可能性はあるだろう。しかし、力強い米経済指標がドル高を後押ししていることから円安ドル高基調が大きく転換する可能性は低く、短期的には日米金利差を意識した動きと為替介入を警戒した攻防が予想されるため、中長期のポジション構築は控えておきたいところだ。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
10 / 26 (木)	21 : 15	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆
10 / 26 (木)	21 : 30	US	米GDP速報値	☆☆☆☆
10 / 31 (火)	** : **	JP	日銀金融政策決定会合	☆☆☆☆
11 / 2 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
11 / 3 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
11 / 14 (火)	22 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
11 / 15 (水)	22 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなされるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。